

「自然体」

池尾 晋

自然体という言葉があります。聴こえの良い言葉であり、心が平穏で落ち着いた状態を指す言葉ではないかと思えます。

しかし私達の日常は、自分や身の回りの状況が良い場合は、心は平穏な状態でいられますが、一度都合が悪い事が起こると心はすぐに不穏になり、怒ったり落ち込んだりします。

私達は、自分に都合が良ければそれが自然だと思い、都合が悪ければ不自然だと感じて生活しているのではないのでしょうか。

人生、誰しも自分の思い通りに生きたいと思っているには違いありませんが、思い通りにいつているからと言って、それが自然の有り様とは限りません。思い通りでなくてもそれが自然の姿である場合もありますし、思い通りいついてもそれが不自然な場合もあります。

川の水は上流から下流へと自然に流れていきます。途中、どんなに大きな岩があっても、避けることなくそのままぶつかり、流れのままに進んでいきます。

私達は、時に自分の都合で川の流れを堰き止めたり逆流させようとします。そして目の前に岩が立ちほだかれば、逃げるか取り除くしなかいという心で日常を送っているのではないのでしょうか。

とは言え、都合が悪いものは受け入れない。都合の良いものは受け入れる。私達は、どんなに悪戦苦闘しようともこの心から離れる事はできません。

親鸞聖人は「弥陀仏とは自然じねんのようを知らせりょうなり」と言われました。自然の姿を知らない私達に自然じねんの姿を知らせようとする働きが本願力であり、本来、自分の都合の良い悪しで救いが左右されるような「私」では無かったと如来から知らしめられる時、初めて自然体となれるのでしょ。う。

そこで初めて、人生を自分に合わせようとしていた心が転換され、いかなる人生の苦難をも受け止め、受け入れる心が生まれるのでしょ。う。

私の心の方向性が如来の心の方向性と出会う時、初めて清流のせせらぎのような自然体生まれ、お念仏が生まれるのであると思えます。